

[果樹部門]

## 2. モモ新品種「岡山PEH8号」に適した果実袋の種類

[要約]

モモ新品種「岡山PEH8号」は、通常多く用いられるオレンジ袋を被袋すると、果皮の緑色が濃いまま成熟するが、白黒有底袋を用いることで果皮の緑色が薄くなり、外観品質が向上する。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話086-955-0276

[分類] 情報

---

[背景・ねらい]

岡山県は、極晩生で食味の優れるモモ新品種「岡山PEH8号」を2014年に育成した。本品種は、通常多く用いられるオレンジ袋を被袋すると、果皮の緑色が濃いまま成熟するため、本品種に適した果実袋を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 本品種は慣行のオレンジ袋に比べて、白黒袋を用いると、果皮クロロフィル値が低くなり、緑色が薄くなる（表1、図1）。
2. 白黒無底袋では、果頂部と赤道部の果皮クロロフィル値の差が大きく、外観品質が優れないが、白黒有底袋では、果頂部と赤道部の差が小さくなり、外観品質が向上する（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「岡山PEH8号」は、2014年7月14日に品種登録出願が公表された。出願前の系統名は「岡山モモ14号」である。また、生産振興上の名称は別途検討予定である。
2. 収穫時の熟度判定には、果実袋を破り、赤道部～果梗周辺部の果皮色を確認する。
3. 本品種は「岡山PEH8号」として品種登録（2016年3月22日）され、「白露」として商標登録（2017年9月15日）された。系統名は「岡山モモ14号」である。「追記2018年9月」

[具体的データ]

表1 果実袋の違いが「岡山PEH8号」の果皮クロロフィル値及び果肉硬度に及ぼす影響 (2013年)

果実袋の種類 <sup>z</sup>	果皮クロロフィル値	果肉硬度 (kgf)
白黒有底袋	35.0	2.6
オレンジ無底袋	48.5	2.7
有意性 <sup>y</sup>	**	ns

<sup>z</sup>被袋時期；6月3日

<sup>y</sup>t検定により、\*\*は1%水準で有意差あり、nsは有意差なし

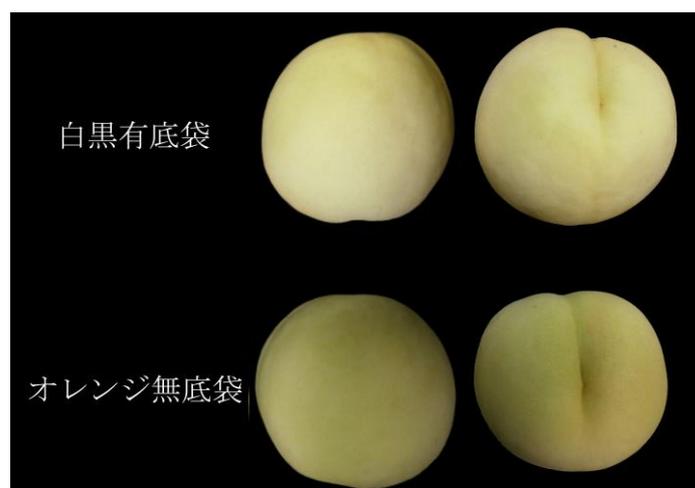


図1 果実袋の違いが「岡山 PEH 8号」の果実外観に及ぼす影響 (2013年)

表2 果実袋の違いが「岡山PEH8号」の果実品質に及ぼす影響 (2014年)

果実袋の種類 <sup>z</sup>	果実重 (g)	糖度 (°Brix)	果皮クロロフィル値			裂皮 (%)
			果頂部(a)	赤道部(b)	(a)-(b)	
白黒有底袋	380	12.9	33.4	27.0	6.4	0
白黒無底袋	380	13.2	46.1	25.4	20.7	0
有意性 <sup>y</sup>	ns	ns	**	ns	**	

<sup>z</sup>被袋時期；5月27日

<sup>y</sup>t検定により、\*\*は1%水準で有意差あり、nsは有意差なし

[その他]

研究課題名：モモ新品種の育成

予算区分：県単

研究期間：2013～2014年度

研究担当者：田村隆行、日原誠介

関連情報等：1) [日原ら \(2014\) 岡山県農業研報、5 : 13-16](#)

2) [平成25年度試験研究主要成果、31-32](#)